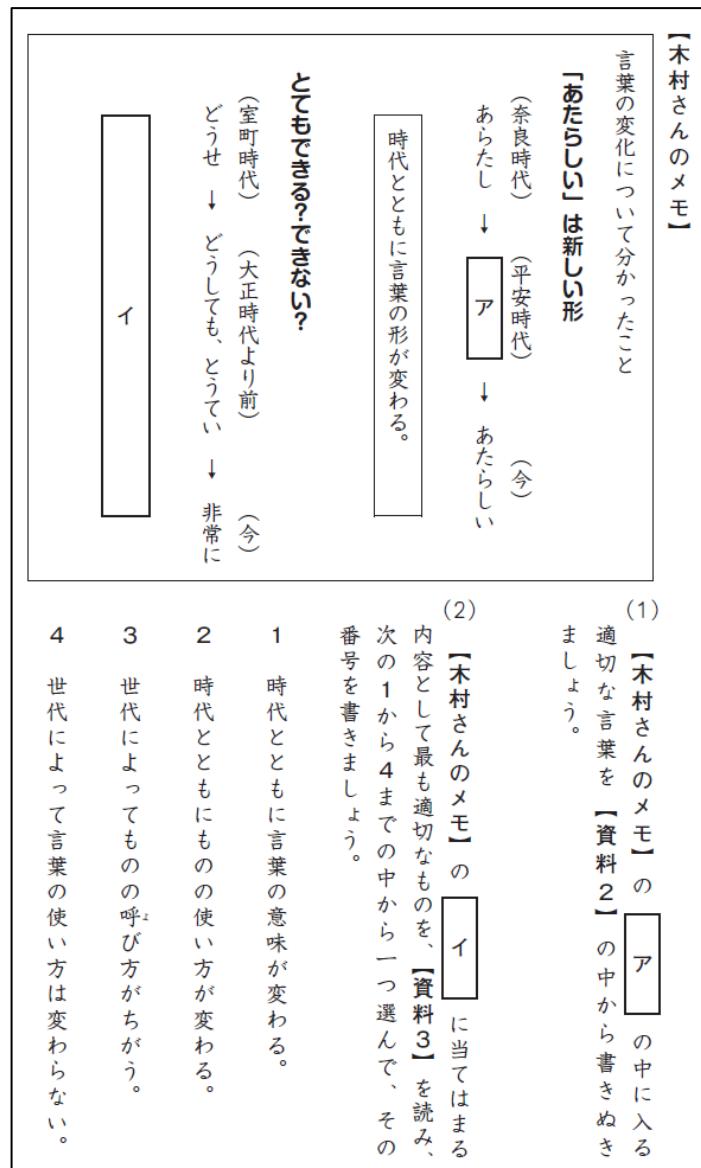


【読むこと】

- 事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られた。

時代による言葉の変化について学ぶために「文化庁国語課の勘違いしやすい日本語」などの3つ資料をもとに調べたことをメモに整理した。

3つの資料の情報を整理し、わかったことを端的にまとめることに課題が見られた。



【話すこと・聞くこと】

- 話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができる。
- 相手の考え方と自分の考え方を比べながら、発言をすることができる。

【漢字の書き取り】

- 漢字を文のなかで正しく書き取ることに課題が見られた。

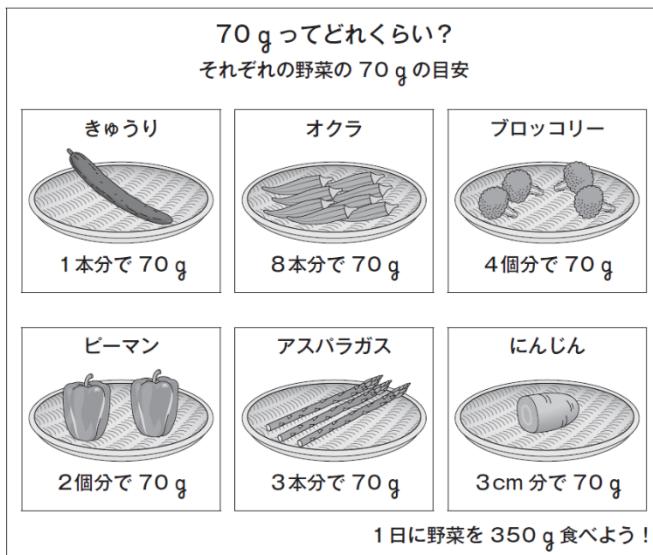
※「暑い」が正答であるが「熱い」など同音異義語を解答している誤答が多い。「好み」は、多くの児童が正答していることから、音読みで同音異義語が多い漢字の書き取りに課題が見られる。

算数

全国平均正答率と「ほぼ同程度」（やや下回る）

【数と計算】

- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することに課題が見られた。



上の資料をもとにすると、ピーマン 1 個とブロッコリー 4 個を食べたとき、何 g の野菜を食べたと考えることができますか。

求める式を書きましょう。また、答えも書きましょう。

- 分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られた。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

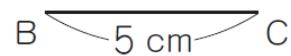
$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

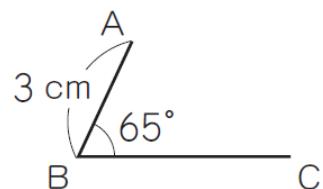
【図形】

●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題が見られた。

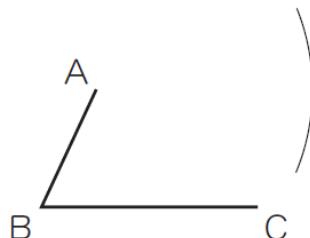
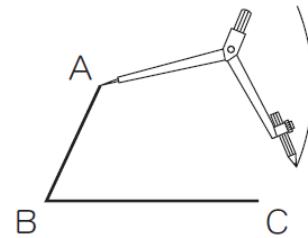
① 長さが 5 cm になるように辺 BC をかきます。



② 角 B の大きさが 65° で、長さが 3 cm になるように辺 AB をかきます。



③ コンパスを使って、頂点 D の位置を決めます。
コンパスを 5 cm (辺 BC の長さ) に開き、
コンパスの針を頂点 A にさして、円の一部を
かきます。



このあと、頂点 D の位置を決めるために、コンパスをもう一度使います。
コンパスを何 cm に開きますか。答えを書きましょう。
また、コンパスの針をさす場所を、頂点 A、頂点 B、頂点 C の中から 1 つ
選んで書きましょう。

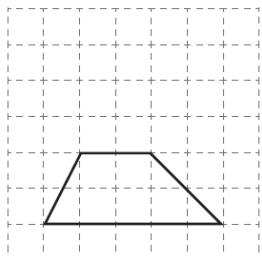
多くの児童がコンパスを 5 cm に開くと誤答している。

【図形】

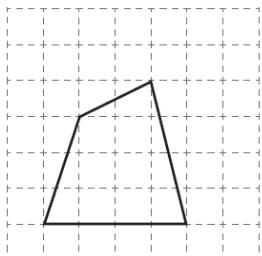
●台形の意味や性質についての理解に課題が見られた。

- (2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。
下の 1 から 5 までの内で、台形はどれですか。
3つ選んで、その番号を書きましょう。

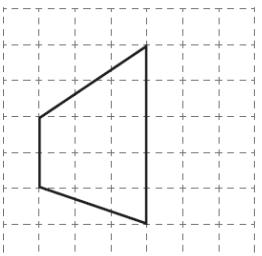
1



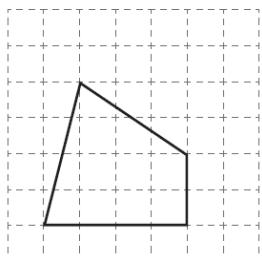
2



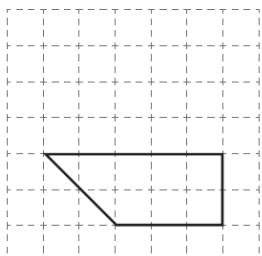
3



4



5

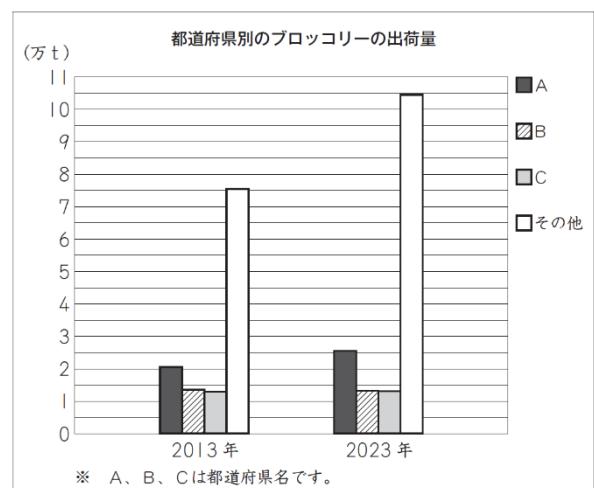
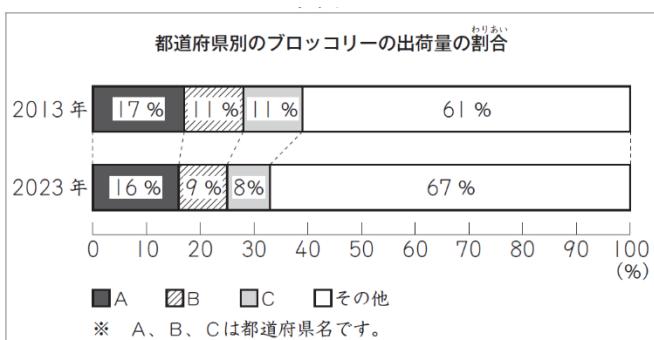


2や4を選んでしまい、5を選べなかった児童が多かった。

台形は向かい合った一組の辺が平行ということを理解できていない児童が多い。また、下底より上底の辺が短いと思い込んでいる児童も多い。

【データの活用】

●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。



●身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられる物があることの知識の定着に課題が見られた。

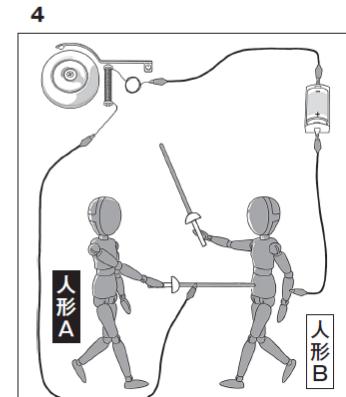
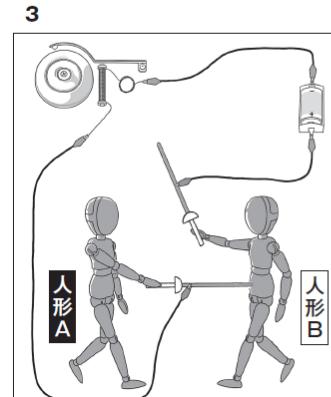
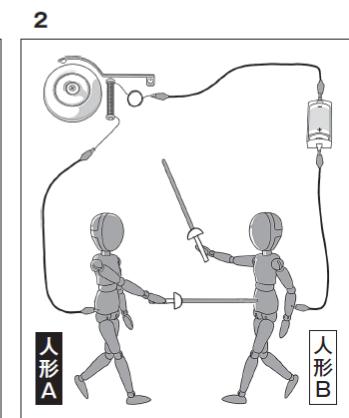
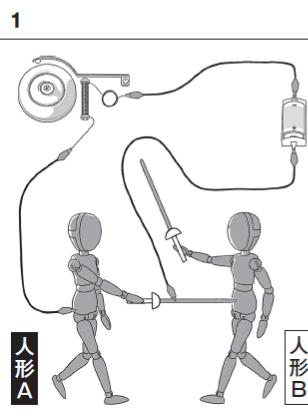
(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのなかからそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

アルミニウム、鉄、銅の性質を正しく理解できていない。ほとんどの児童が正答できなかつた。

●電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することに課題が見られた。

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までのなかから 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



特に選択肢3を
選ぶ誤答が多かった。

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することに課題が見られた。

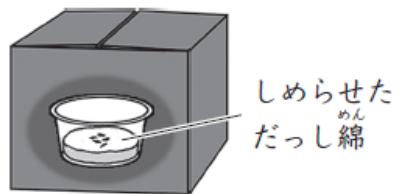
たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろ

たかひろさんが行った実験



〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



てるみ

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

実験の結果をもとに、新たな問題を見つけることができない児童が多かった。

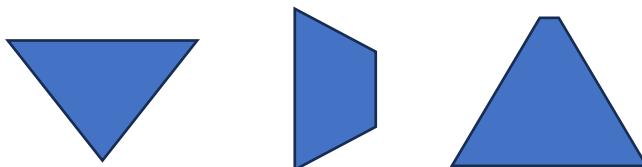
＜指導の改善策＞

【国語】

- ☆国語の時間だけでなく、生活のさまざまな場面や総合的な学習の時間の学習などを通して、情報を収集し、複数の情報から取捨選択をしたり、考えをまとめていたりする活動を取り入れていく。
- ☆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるよう指導する。
- ☆漢字の書き取りは、ドリルなどでその漢字だけを繰り返し練習するだけではなく、文章の中で書かせたり、日常生活の中で意識的に漢字を使わせたりするようにしていく。

【算数】

- ☆「数と計算」の学習では、文章題の中に計算に必要な数値だけが示されていることが多い。たくさんの情報の中から、課題解決に必要な情報を選ぶ活動を取り入れていく必要がある。
- ☆位取り十進法や単位の考え方、数の構成等についての学習を大切にし、計算方法を説明させる活動を意図的に取り入れていく。
- ☆「図形」の学習では、低学年からいろいろな向きで図形を示していく必要がある。



- ☆算数の時間だけでなく、生活のさまざまな場面や理科・社会などさまざまな教科の学習を通して、データを活用する力を身に付けさせるようにする。また、グラフのどの部分からそのように読み取ったのかを明らかにして、他者にわかるように伝えることができるよう指導していく。

【理科】

- ☆実験や観察では、児童の疑問を大切にし、その課題解決には、どんな実験や観察が必要なのかを児童に考えさせるようにする。教師が最初から、実験を与えない。また、実験の条件制御についても児童に考えさせる。
- ☆下の学年からの積み重ねを大切にし、今までの経験や既習内容を確認しながら学習を進める。

<質問調査の結果にみられる特徴と現状分析>

- 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という質問に100%の児童が肯定的な回答をした。
- 「学校に行くのは楽しいと思う」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、非常に高い。
- 「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、非常に高い。
- 「読書は好きですか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、比較的高い。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、非常に高い。
- 「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は非常に高い。
- 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は非常に高い。
- 「あなたはタブレットなどの ICT 機器を使ってプレゼンテーションを作成することができるか」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は非常に高い。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思う」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、非常に高い。
- 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は、高い。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は高い。
- 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある」という質問に肯定的な回答をした児童の割合は低い。

今年度の三小の6年生の児童の特徴として、自己肯定感、自己有用感は高く、学校生活を楽しいと感じている児童が多い。タブレットなどの ICT 機器が積極的に活用されていて、使いこなせている児童が多く、学習にも生かされている。地域との関わりは、やや低い傾向にある。

今後も児童が生き生きと活躍できるような場を設定し、一人一人のよさを認め、意図的に伝えていくことが必要である。授業改善・学級経営の充実が求められる。